

最優良賞

「根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会」

～地方講演会による情報発信～

【協議会の概要】

「根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会」は、地域水産物のブランド化を図り、水産業はもとより地域経済や社会の活性化を目指しています。

特に、歯舞水産物ブランド化を中心テーマに位置付け、ブランド化への取組を通じた漁業振興による地域の活性化に向けて関係者が一体となって取り組み、活気のある地域づくりを目指しています。

【取組概要と選定理由】

歯舞地域では、「渚泊推進事業」、はぼまい昆布しょうゆや金たこ等の「水産物のブランド化」、人工地盤と一体となった衛生管理型市場の新設等の「衛生管理対策」等、様々な事項に先駆的に取り組んでいます。歯舞地域では、有識者からの「これらの取組を地域だけに留めるのではなく、全国の牽引役として積極的に道内外に発信すべき」との助言を踏まえ、令和元年は、教育機関や漁協等、全道・全国 11 箇所での講演会を開催する等、広域的な視点をもって、積極的に情報発信を行いました。

これにより、講演依頼が増加するとともに、全国的にも「歯舞」の知名度・認知度が向上し、歯舞漁港での各催事の来場者数の増加に繋がりました。

この取組は、北海道のみならず、全国の漁村の活性化に寄与する取組として、高く評価されました。



渚泊の取組についての講演



東京海洋大学においてブランド化への取組についての講演

優良賞

「ウトロ地域マリンビジョン協議会」

～鮭、日本一のまちPR～

【協議会の概要】

「ウトロ地域マリンビジョン協議会」は、二大産業である漁業と観光業の多様な連携による相乗効果と、ウトロ漁港を中心とする基盤施設等を有効に活用することで、地域・社会経済の活性化を目指しています。

【取組概要と選定理由】

ウトロ地域では、知名度や魚価向上のため、「鮭、日本一のまち」のPRに継続的に取り組んでいます。ウトロ漁港では人工地盤を活用しサケの水揚げ見学コースを設置するなど、観光資源化を図ることとし、全国から愛称を募集し、令和元年5月に名称を「ウトロ鮭テラス」に決定しました。ポスター、カード、ノボリ等を活用し、様々な媒体において「ウトロ鮭テラス」、「鮭、日本一のまち」のPR活動、サケの水揚げ見学の受入れや地元水産物の販売等を通じて、地域の魅力発信を行いました。

これにより、ウトロ道の駅で実施したアンケートでは、鮭日本一のまちの認知度が6割以上となるなど、観光客等の認知度が大きく向上しました。

この取組は、漁港施設の観光への活用、地域資源の情報発信の模範となり、販路拡大にも資するものとして高く評価されました。



ウトロ鮭テラスからの水揚げ見学の状況



作成したウトロ鮭テラスのポストカード



新設した案内看板

優良賞

「積丹地域マリンビジョン協議会」

～ウニと藻場の循環型再生産～

【協議会の概要】

「積丹地域マリンビジョン協議会」は、道内有数の観光地が持つポテンシャルと、これまで町内で取り組んできた環境保全・文化伝承等の成果を踏まえ、漁港の活用とその周辺における新たな交流拠点整備を通じて、地域産業の連携・協働により雇用の場を創出し、多くの人が集う、活力と賑わいのある地域を目指しています。

【取組概要と選定理由】

積丹地域では、ウニの深淺移植等の磯焼け対策に積極的に取り組んできましたが、毎年大量に発生するウニ殻が、農地での肥料として有効であることに着目し、ウニ殻を施肥材として、コンブ養殖に活用する取組を行いました。

これにより、ウニ殻の成分を染み込ませたコンブ養殖ロープは、通常のロープと比較して1本あたりのホソメコンブの生産量が3.8倍になる成果が得られました。

この取組は、【ウニの加工⇒ウニ殻の再利用⇒ウニ殻の餌となるコンブの成長促進⇒ウニの身入りの安定】というサイクルであることから、漁業者自らが行える簡易な方法であり、磯焼けや漁業資源の減少が進む日本海において、先駆性があり、漁業生産の向上に寄与する省力的かつ循環型な取組として高く評価されました。



ウニ殻を施肥材として活用したコンブ
(右側は従来コンブ：生長の違いが顕著)



ウニ殻肥料を付けたロープを海中に沈める様子

奨励賞

「雄武地域マリンビジョン協議会」

～つくり育てる漁業の推進～

【協議会の概要】

「雄武地域マリンビジョン協議会」は、水産物の品質・衛生管理の強化と、増養殖等のつくり育てる漁業についての推進を両立し、信頼有る雄武産水産物の地位確立を目指しています。また、雄武産品の良さを地元関係者が再認識し、地域産業が連携して PR することで、地域振興に繋げることを目指しています。

【取組概要と選定理由】

雄武地域では、漁港整備で創出された静穏水域を活用して、コンブ場の創出とウニの養殖をあわせて行っているところであり、歩留向上のため、移植作業を毎年行っています。ウニの採取は人手を要することから、省労働化を図るため、大量のコンブを入れたザルを投入し、ウニをザルへ誘導するという試験的な取組を行いました。

これにより、2日間放置した10枚のザルにおいてウニが合計1,300個体以上採取するとともに、個体の重量測定及び年齢査定も効率的に行うことができました。今後は、引き揚げる際の重量を考慮し、適正なコンブ量の調査を行うなど安定的な漁獲が出来る体制づくりに取り組む予定です。

この取組は、省労働化や漁港整備で創出した水域における水産物の増産効果を高めるものであり、他地域への波及、発展性や持続性が期待される取組として評価されました。



ウニを誘導するために考案された養殖コンブを入れたザル（ウニザル）



ウニザルで採取されたウニの状況

奨励賞

「遠別地域マリンビジョン協議会」

～世界初の新製品！ミズダコ原料の「タコソーセージ」開発

（遠別農業高校との連携）～

【協議会の概要】

「遠別地域マリンビジョン協議会」は、農林水産業の連携により、北海道のモデルとなる環境にやさしいクリーンな産地形成を目指すとともに、地域資源を有効活用し、クリーンな農林水産物のハーモニーで地域の元気と食の安全・安心を支える地域を目指しています。

【取組概要と選定理由】

遠別地域では、地元水産物を使用した新たな特産品の開発が課題であり、タコ型のウインナーはあるが、本物のタコを使用したソーセージは無いとの発想から、遠別農業高校と連携して、世界初のミズダコを原料とした「タコソーセージ」を開発しました。今後は、令和2年4月にオープンする道の駅における販売やふるさと納税の返礼品としても考えており、積極的に販売・PR活動を行う予定です。

この取組は、独創的であり、加工品開発を通じて、地域資源の掘り起こしや、地元高校生が発想を大切に、地域の方が漁業に関する知識・愛着を得る良いきっかけとなるなど、地域生産の向上や人材育成に期待されるものであり、関係者の一層の連携により発展性や持続性が期待される取組として評価されました。



開発したタコソーセージ



地元高校生による製造作業の様子



町長への活動報告後の記念撮影の状況